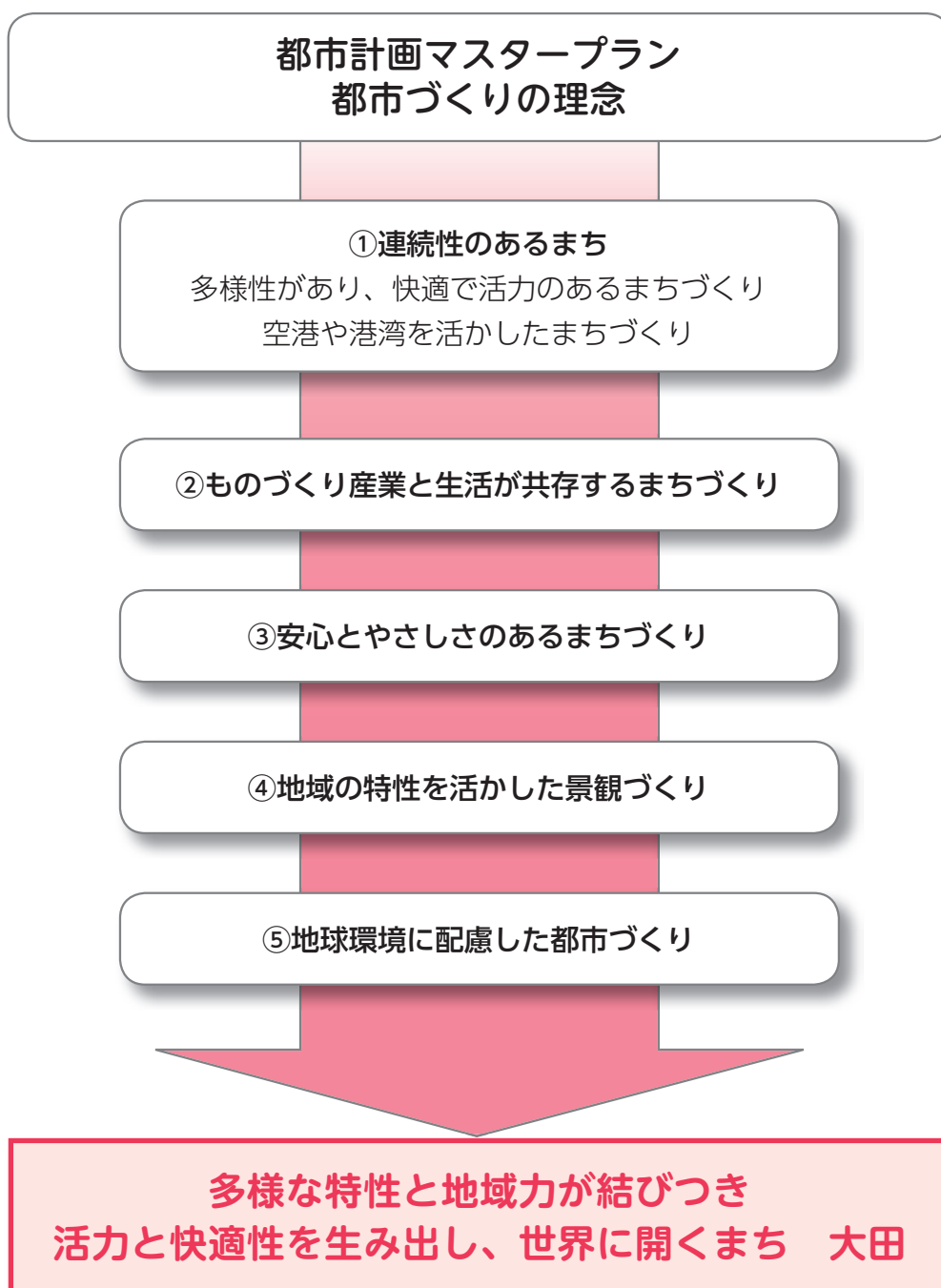


Ⅱ章 都市の将来像

1. 都市づくりの理念

(1) 都市づくりの理念

次のように都市づくりの理念を設定します。



(2) 都市づくりの方向性

大田区の現況と課題を受け、次のような都市づくりの方向性を設定します。

① 連続性のあるまち

大田区は、台地部を中心とする住宅が主体の地域から、大森、蒲田を中心とする商業業務が集積する地域、多摩川沿いや糎谷・羽田の工場が集積する地域、臨海部の物流や大規模工場が集積する地域などが隣接しており、それぞれ特徴のある地域がお互いに連携し発展が図られるような、連続性のあるまちづくりを進めていきます。

ア. 多様性があり、快適で活力のあるまちづくり

羽田空港という「空の顔」、臨海部埋立地の港湾機能という「海の顔」、多摩川という「川の顔」をはじめ、緑豊かな住宅地や町工場に隣接した住宅地などの「住まいの顔」、駅前の商業業務地区や地域の商店街などの「商業の顔」、町工場や流通機能などの「産業の顔」そして、歴史や文化を持つ史跡や神社仏閣等の「歴史と文化の顔」など、大田区は東京の縮図ともいえる多様性を持つ都市です。

それぞれの地域の個性を活かし、それぞれの「顔」の特色をより深めたまちづくりを進めつつ、快適で活力が生まれるよう、また、居住者にとってもその地域を訪れる人々にとっても、魅力的と感じるようなまちづくりを進めていきます。

イ. 空港や港湾を活かしたまちづくり

羽田空港や臨海部埋立地の港湾物流機能などの広域的な拠点、及びこれらを結ぶ鉄道、モノレール、国道357号線や放射17号線(産業道路)、環状7号線、8号線などの動脈があり、東京の広域機能の一翼を担っています。羽田空港の国際化や港湾機能の高度化により、外国からの人や物の流れも更に増加していくため、臨海部地域を更に発展させるとともに、内陸部の産業振興の一端となるよう、内陸部とのネットワークを強化するまちづくりを進めていきます。

② ものづくり産業と生活が共存するまちづくり

大田区の工業は、戦前・戦後を通じて日本の工業の成長に大きく貢献してきました。特に機械金属工業を主体とする製造部門では、国内でも有数な高度な技術と工業の集まる地域とされ、ナショナルテクノポリスとして日本のハイテク産業を支えてきました。

特に内陸部の工場は、工作機械や産業用ロボットなどの高精度な資本財の生産に関わる「多品種、少量、短納期」を売りにする中小工場が多く、狭い工場内でもできる「高精度、高密度」な仕事を得意とし、それぞれが専門化した技術を持寄って仕事をする生産ネットワークが形成されています。

社会経済的に大きな変化の時期を迎え、これらの産業の活力を維持し、発展させていくことは産業分野のみならず、区民生活及び区政の発展にとって大きな課題となっています。

このために区民の生活様式や、社会構造の変化にあわせた産業環境の創造を図り、生活と産業が共存するまちづくりを進めていきます。

3 安心とやさしさのあるまちづくり

平成7年の阪神・淡路大震災以降、日本各地において大規模な地震による被害が発生し、災害からの安全性や区民の誰もが安全で快適に生活のできる環境の確保は、今後もまちづくりの重要な視点となります。

また、都市防災や生活環境面において、高齢者や障がい者をはじめとした、地域の誰もが安心して生活・行動できる都市空間を形成するためには、ユニバーサルデザインの視点も重要になります。

このことから地域の防災性の向上やユニバーサルデザインの推進により、安心とやさしさのあるまちづくりをめざしていきます。

4 地域の特性を活かした景観づくり

道路や都市施設の整備等、公共施設の整備の際には、「空の顔」「海の顔」「川の顔」「商業の顔」「住まいの顔」「産業の顔」「歴史と文化の顔」など、それぞれの地域の個性を活かした景観形成に努め、周辺の景観の向上に寄与するような都市空間づくりをめざします。また、景観形成を通じて居住者にとってもその地域を訪れる人々にとっても、魅力的と感じるようなまちづくりを進めていきます。

5 地球環境に配慮した都市づくり

地球温暖化による気候変動の危機を回避するためには、低炭素型社会への早期移行と再生可能エネルギーの利用を拡大することが重要です。また大気汚染やヒートアイランド現象を緩和する緑地の保全や緑化の推進などが、都市づくりにおいても重要な視点となります。

このため、省エネルギー化の徹底、再生可能エネルギーの活用や緑化の推進などにより地球環境に配慮した都市施設の整備や都市空間づくりをめざしていきます。

2. 都市構造

(1) 多様性のある地域が一体となった都市づくり

空の玄関口である羽田空港や、工場・流通・港湾などの産業の場、そして緑豊かな住宅地など、多様な土地利用を活かした地域が一体的に発展する都市づくりをめざします。

- ① 緑豊かで良好な住環境を持つまちをめざす **「台地部地域」**
- ② 住環境と産業が調和した、歴史と文化のかおりただよう中心拠点としてのまちをめざす **「大森地域」**
- ③ 羽田空港の近接性を活かしたにぎわいのある商業業務の拠点としてのまちをめざす **「蒲田地域」**
- ④ 水辺の環境を活かした工業と住宅の調和したまちをめざす **「多摩川沿い地域」**
- ⑤ 活力にあふれ、災害に強い、国際空港の玄関口にふさわしいまちをめざす **「糀谷・羽田地域」**
- ⑥ 国際空港と共生し未来に向かって躍動する臨海都市をめざす **「空港臨海部地域」**

このような6つの地域の特徴を活かし、便利で快適な都市づくりをめざします。

多様性ある地域が一体的に発展する都市づくり



(2) 拠点等の配置とネットワーク

都市構造では次のような主要な拠点とネットワークを設定します。

◆主要な拠点等の配置◆

○中心拠点

交通の主要な結節機能を有し、商業業務や情報、文化など都市の多様なサービス機能の維持、集積を図っていく蒲田駅及び大森駅周辺、また、産業、文化交流機能や業務機能の集積化を図っていく羽田空港跡地やその周辺地区を、中心拠点として位置付けます。

○地域のまちづくり拠点

地域の人々が集まる駅のうち、まちづくり活動が進んでいる、あるいはまちづくり活動を予定している地区を、地域のまちづくり拠点として位置付けます。

○地区の生活拠点

地域のまちづくり拠点以外の駅の周辺や、商店街の形成されている地区を、生活を支える多様なサービス機能の集積を図る、地区の生活拠点として位置付けます。

○歴史・文化の拠点

大森貝塚や馬込文士村、池上本門寺、そして区民ホールなどを、歴史、文化の拠点として位置付けます。

○水と緑の拠点

平和の森公園、大井ふ頭中央海浜公園、東京港野鳥公園、城南島海浜公園、京浜島つばさ公園、洗足池公園、大森ふるさとの浜辺公園、田園調布せせらぎ公園、東京工業大学周辺、東調布公園付近、池上本門寺付近、蒲田駅周辺、森ヶ崎公園周辺等を水と緑の拠点として位置付けます。

○スポーツ・レクリエーションの拠点

平和島公園、平和の森公園、萩中公園、東調布公園、多摩川緑地などを、スポーツ・レクリエーション機能を備えた拠点とします。特に大田区総合体育館は区民のスポーツ活動を支える情報の受発信等新しい時代に対応できる主要拠点として位置付けます。

《主要な拠点等を結ぶネットワーク》

○道路・交通網ネットワーク

円滑な交通の流れを確保し、都市の骨格を形成する幹線道路とこれを補完する補助幹線道路や身近な生活道路の整備や、内陸部と臨海部埋立地との接続性の向上、東西方向の利便性を高めるよう公共交通を適切に配置するなど、安全で快適な道路・交通網のネットワークを形成します。

○水と緑のネットワーク

東京湾や多摩川及び中小河川をはじめとする水辺や、多摩川沿いなどの緑、そして池上本門寺、馬込文士村、亀甲山古墳等の地域の個性ある緑を活かした、水と緑のネットワークを形成します。

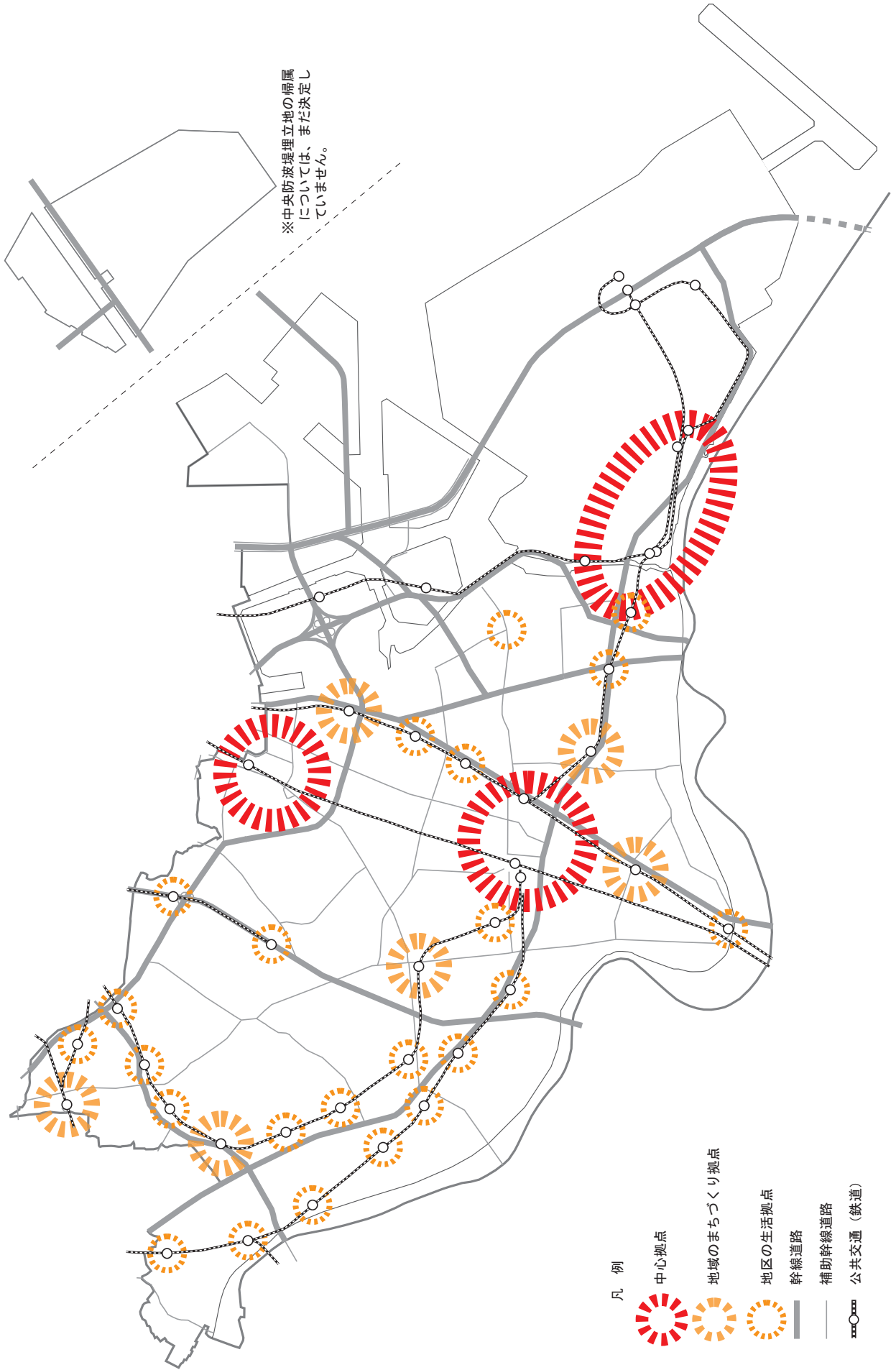


JR蒲田駅西口

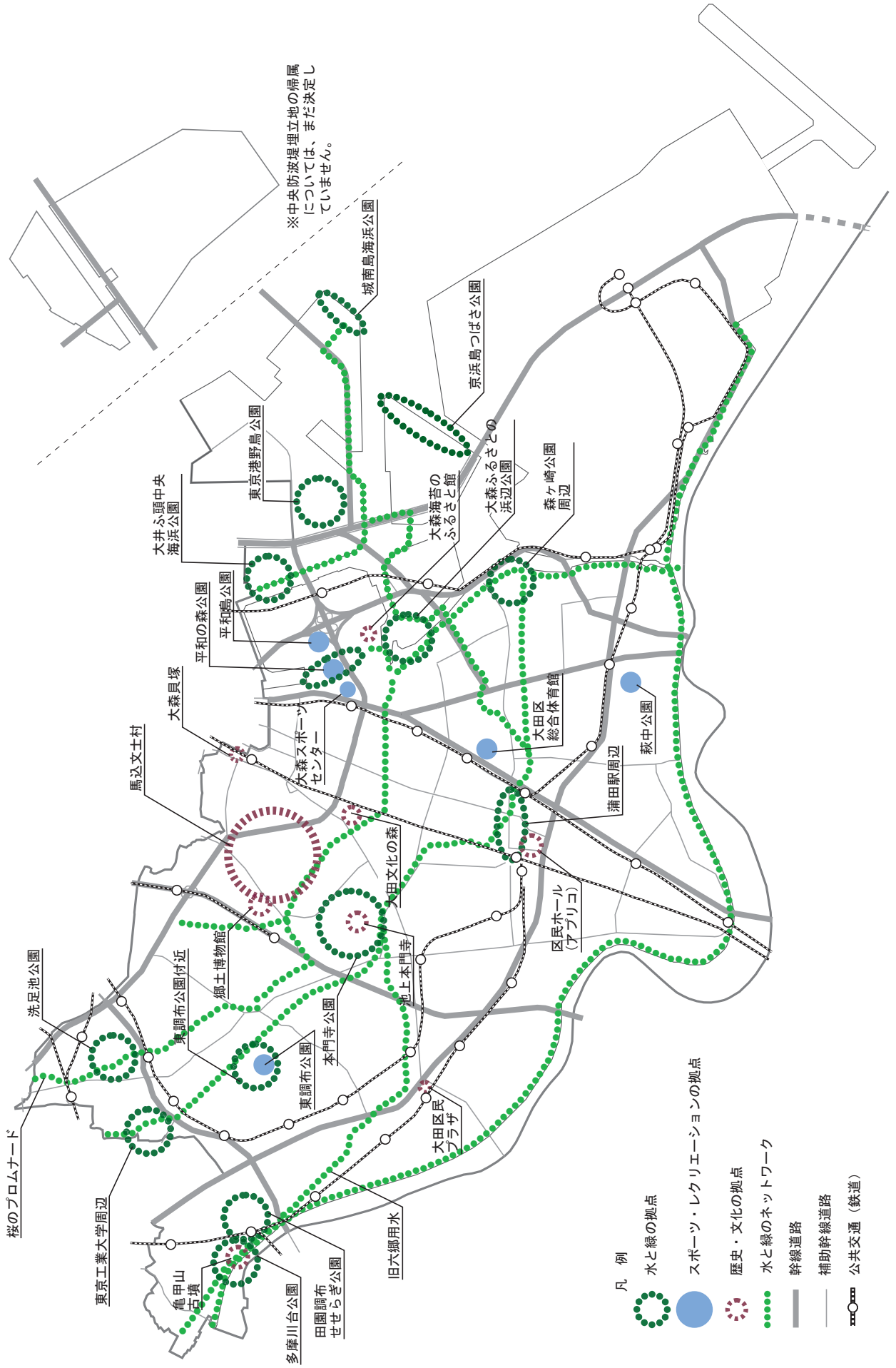


平和の森公園

主要な拠点等の配置図



水と緑、歴史文化等の拠点とネットワーク図



- 凡例
- 水と緑の拠点
 - スポーツ・レクリエーションの拠点
 - 歴史・文化の拠点
 - 水と緑のネットワーク
 - 幹線道路
 - 補助幹線道路
 - 公共交通（鉄道）